

中国四国教育学会第 70 回大会報告

中国四国教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科教育学講座内

cssse@hiroshima-u.ac.jp

11月17日(土)、18日(日)の両日、全国の神様が集まる島根県で中国四国教育学会第70回大会を開催することができました。今回は70回という節目となる大会であり、ご参加いただいた多くの会員の皆さまに御礼を申し上げるとともに、会場校をお引き受けいただいた島根大学の権藤誠剛大会実行委員会委員長、加藤寿朗教育学部長をはじめ、開催を支えていただいた実行委員会の先生方に深甚の感謝を申し上げます。

今年度の大会では、26の自由研究発表部会が編成され151件の発表がありました。また大会校企画の公開シンポジウムと1件のラウンドテーブルもあわせて実施され、2日間で正会員220人、臨時会員40人と多くの参加者をえて盛大な研究大会となりました。公開シンポジウムは、大会校のご協力を得て第70回大会記念シンポジウムとして、「地域課題に教育学はどう応答するか—島根県「高校魅力化プロジェクト」を焦点に—」をテーマに論議が展開されました。島根大学権藤会員と加藤会員のコーディネートにより、シンポジストに高校魅力化プロジェクトを牽引されている岩本悠先生、隠岐島前高等学校でプロジェクトを実施された中村怜詞先生、プロジェクトを学習論の立場から論じてくださった森朋子先生、教育史の視点から日独の比較考察をしてくださった山名淳先生に登壇いただき、中身の濃い研究討議が展開されました。地域課題に教育や教育学がどう取り組むかという問題は、地方教育学会である私たちの学会にとって存在意義にも関わる根幹的なものであると思います。中国四国を地盤としつつ、もちろんそれを越えた広域的な会員と研究視座を保持する我が学会は、その責務としてリージョナルな地域特有の課題に取り組むことと、それをナショナルあるいはグローバルな、さらにはアカデミックな分析考察の視点とつなぐことが求められています。その意味で、今回大会の公開シンポジウムは第70回記念大会にもっともふさわしいテーマであったとすることができます。

大会報告として会員の皆さまにお伝えすべきことがもう一つあります。総会においてお話ししたことで、学会運営の効率化についてです。他の学会においても似たような状況があるようですが、学会を担う事務局、あるいは編集委員会の業務量とそれを支えるスタッフ、財政的基盤が厳しくなっています。今回総会でお認めいただいたことの一つは、編集委員会のルーティンの作業を外部に業務委託することです。一定の経費は必要ですが、現在の編集委員や幹事の業務は大学教員の通常の仕事の枠外で担当していただくには、その域を大きく超えています。また、今回は検討課題としてのみ示させていただきましたが、会員情報管理システムの導入や学会活動のペーパーレス化なども、近々取り組まなければならない案件として想定されます。もちろん、事務局の運営は学会活動の充実、会員の研究活動支援を第一に考え行ふべきですが、持続可能な学会運営という視点も欠かすことができません。この点、会員の皆さまのご理解をお願いし、今後とものご支援をいただけましたら有り難く存じます。

【会長・坂越正樹】

○自由研究発表・公開シンポジウム・ラウンドテーブル

自由研究発表は、計 26 部会で 156 件（うち取り消し 5 件）の発表が行われ、各部会において活発な議論が交わされました。うちには、本学会が助成している「課題研究」の成果発表にあたる発表が 3 件行われました。

大会一日目の午後に設けられた第 70 回大会記念シンポジウムは、91 名の参加者がありました。司会の権藤誠剛氏（島根大学）により趣旨説明がなされた後、シンポジストである岩本悠氏（島根県教育庁）、中村怜詞氏（島根大学教職大学院）、森朋子氏（関西大学）、山名淳氏（東京大学）より、「「島根県高校魅力化プロジェクト」について」（岩本氏）、「地域課題解決型の探究学習とソーシャルキャピタル」（中村氏）、「学習論からみた「高校魅力化プロジェクト」—越境学習による個人とコミュニティの学び—」（森氏）、「もう一つの「島の学校」—学校魅力化プロジェクトとしてのドイツ「新教育」—」（山名氏）をテーマに発表がなされました。

大会二日目の午後には、1 件のラウンドテーブルが開催され、「課題研究」の成果が発表されました。テーマは「教科としての道徳の実質化に大学はいかなる役割を果たせるか—実践の力量を持つ道徳授業者の養成—」であり、39 名の参加者がありました。

○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の 11 月 16 日（金）18 時から島根大学教育学部棟 517 室において開催され、役員 10 名と事務局幹事 2 名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会第一日目の 11 月 17 日（土）に、島根大学大学ホールで開催されました。島根大学教育学部長加藤寿朗先生よりご挨拶をいただいた後、事務局から各種報告が行われ、続いて 2017 年度決算報告・会計監査報告、2018 年度予算案・中間決算報告、『教育学研究ジャーナル』発行回数の変更、次年度大会校、副会長の改選についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。総会の進行は以下のとおりです。

中国四国教育学会・総会

1. 開会の辞	(事務局 長	鈴木 理恵)
2. 会長挨拶	(会 長	坂越 正樹)
3. 大会校挨拶	(教育学部長	加藤 寿朗)
4. 議長団選出	(事務局 長	鈴木 理恵)
5. 報告事項		
(1) 事業・会議報告	(事務局 長	鈴木 理恵)
(2) 研究推進事業報告	(事務局 長	鈴木 理恵)
(3) 編集委員会報告	(編集委員長	永田 良太)
6. 審議事項		
(1) 2017 年度決算報告	(事務局 幹事	岡村美由規)
(2) 2017 年度会計監査報告	(監 査	ト部 匡司・ 吉田 香奈)
	/代理報告	事務局 長
(3) 2018 年度予算・中間決算報告	(事務局 幹事	鈴木 理恵)
(4) 『教育学研究ジャーナル』の発行回数変更について	(事務局 長	岡村美由規)
(5) 会員情報管理システムの導入について	(事務局 長	鈴木 理恵)
(6) 次年度大会開催校および副会長・役員の改選について	(事務局 長	鈴木 理恵)
(7) その他	(会 長	坂越 正樹)
7. 議長団解任	(事務局 長	鈴木 理恵)
8. 閉会の辞	(事務局 長	鈴木 理恵)

○次年度大会のお知らせ

次年度の第 71 回大会は、平成 31 年 11 月 30 日（土）・12 月 1 日（日）に松山大学を会場として開催される予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。